

平成27年度 職員用アンケート集計結果（H28. 1実施）

資料4

	設 問	評価
1①	授業において、各単元の学習に入る前に、既習事項の確認をした。	3.2
1②	授業において、児童の発言や解答を予想し、必要な指導・助言を考えるようにした。	3.1
1③	練習問題などを通して、理解の不十分な児童を把握し、補習や次時の授業で補うように計画した。	3.3
1⑤	漢字・計算コンクールを通して、基礎学力が身についたかどうかの確認をしている。	3.4
1⑥	児童の主體的な活動を取り入れた授業研究を計画的に行った。	2.9
2①	本時の目標を、よりわかりやすく明確にするための提示の仕方が工夫できた。	3.1
2②	児童が考えを伝え合う場面を設定し、学年に応じた指導や助言ができた。	2.9
2③	児童が進んで考え合うことができるようになってきた。	2.8
3①	道徳の授業の指導力を高めるために、研修を有効に活用したり、進んで研修に努めたりした。	2.6
3②	道徳の授業を体験活動(行事や教科)と関連づけて実施することができた。	2.4
3③	「わたしたちの道徳」やワークシート等を活用し、道徳実践力を高めようとすることができた。	2.4
3⑤	道徳資料の整備や年間計画の見直しを必要に応じて進めることができた。	2.5
3⑥	縦割り活動(清掃・集会・なわとび運動)等を通して、異年齢集団の交流のよさを感じたり、役割分担の大切さや喜びを感じたりすることができた。	3.7
4①	児童会活動において、企画運営委員会、代表委員会のメンバーが活躍できた。	3.5
4②	児童は、進んであいさつ運動に取り組めた。	3.1
4②	児童は、進んでリサイクル活動に取り組めたか。	2.8
4③	児童は、運動会、秋の遠足・校外学習、学習発表会、志水祭、お楽しみ集会などの行事に進んで取り組めた。	3.8
5②	地域や外部ボランティア、ゲストティーチャーについて、必要に応じて活用計画を立て、実施した。	2.9
5③	授業後、子どもたちに活動の振り返りをさせたり、自己評価をさせたりして出た意見を今後の授業づくりに生かした。	2.5
6①	学校評価の進め方は、わかりやすい。	2.9
6②	学校評価の自己評価書の項目(中期経営目標、短期経営目標、班、担当、具体的な取り組み、評価項目、評価、達成状況)は適切である。	3.1
7①	校務分掌について、仕事が特定の人に集中せず適切に分担されていた。	2.4
7②	校務分掌について、仕事が重複せず、系統づけられていた。	2.6
7③	校務分掌について、仕事の相關関係がうまくでき、互いに協力し合える体制になっていた。	2.8
7④	校務分掌について、誰がどの仕事の担当か、一目でわかるようになっていた。	2.8
8①	学習指導要領の趣旨を踏まえ、各学年の目標に沿って、授業力向上に向けた授業研究に取り組んだ。	3.1
8②	教職員の力量向上のための現職研修は充実していた。	3.1
9	学校でけがをしたり、体調が悪くなったりしたときの対応が適切である。	3.6
10	学校は、非常災害時や不審者対策など緊急時の対応ができています。	2.9
11	たよりなどを通して積極的に学校の様子を知らせている。	3.6
12	保護者との連絡や意思疎通を積極的に行っている。	3.3
13	学校がきちんと整備されていて、教育の場としてふさわしい。	3.1
14	学校では児童や学年に応じた働くことの意義や目的などを学ぶ機会を設けている。	2.9
15	学校は特別に支援の必要な児童に応じた取組ができています。	2.8

